

2019 Asian Rowing Coastal Championships 参加報告

FISA 審判員 (神奈川県ボート協会) 隈元幸治

1 はじめに

タイ・パタヤで開催されました 2019 Asian Rowing Coastal Championships の IT0 として参加しましたので、報告します。

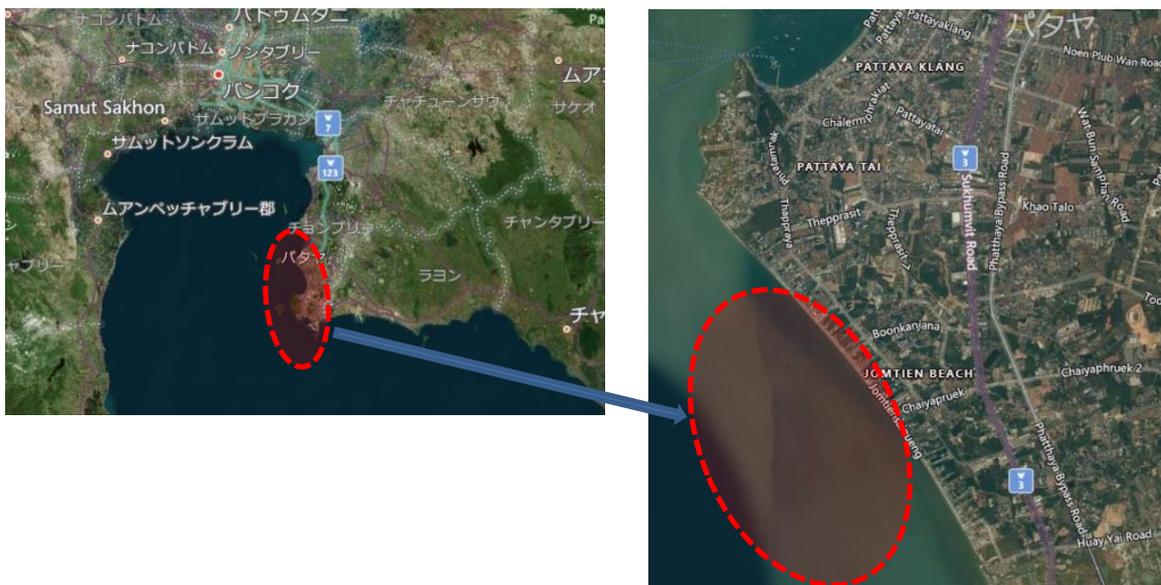
昨年10月にカナダ・ビクトリアで開催された 2018 World Rowing Coastal Championships に引き続きの参加であり、Beach Rowing Sprint を含めたアジアの大会と合わせて、4回目の参加となります。

2 大会の概要

(1) 開催期日 9月19日(木)～22日(日)

(2) 会場 Pattaya, Thailand

Ambassador City Jomtien Hotel Beach and adjacent Area



Course background / Events Hotel

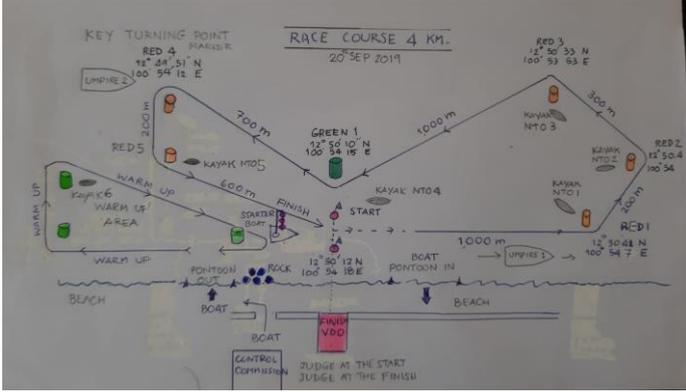


Start Line Buoy / Race Umpire Boat

(3) コース Heats, Final 4Km



Course Map



Course Facility details

(4) 開催種目 8種目

CM 1x、CM 2x、CM 4x+ ,CW 1x、CW 2x、CW 4x+、CMix 2x、CMix 4x+

(5) 参加国 10か国

Bahrain、Bangladesh、Cambodia、India、Indonesia
Japan、Kuwait、Malaysia、Philippines、Thailand

(6) Jury Members 9名

Nation	Name		FISA No.
JPN(POJ)	SENDA	Takao	1230
HKG	LO	Tze Yang	1732
JPN	KUMAMOTO	Koji	1371
MAS	ABDUL MALIK	Abdul	1298
SGP	AHMAD	Ahmad Faizal	1761
IND	KOTHARI	Narenda	0971
THA	PHONGPHANPHANEE	Chairat	1775
THA	SONTAYANANON	Sijnee	1776
THA	THAMTHVORNVANICH	Sittichok	1777



ITO (Jury Members)

(7) レーススケジュール

- 9月19日 Team Managers Meeting, First Jury Meeting, Opening Ceremony
- 9月20日 Qualification Race はなし
- 9月21日 Heats, Preliminary
- 9月22日 Finals, Medal Ceremony

3 審判部署配置

President of Juryのもと、ITO 8名と NTO 約 10 数名により、審判業務を行った。

審判部署	配置人数
President of Jury	1
Control Commission	ITO 1/ NTO
Athlete Weighing	ITO 1/ NTO
Judge at Start	ITO 1/ NTO
Judge at Finish	ITO 1/ NTO
Starter/Assistant Starter	ITO 2/ NTO
Race Umpire	ITO 1/ NTO
Key Turning Mark Umpire	ITO 1/ NTO
Turning Mark Umpire (Kayak)	NTO 6

4 審判業務と設備等

(1) Boat

レースに使用する艇は、すべて Swift Racing 社からのレンタル艇

なお、Swift Racing 社は、FISA と Coastal boat に関する独占契約を締結しています。

そのため、World Coastal Championships や Asian Coastal Championships の大会では、Swift Racing 社のレンタルボートが使用されています。



Boat Storage Area

(2) Starter

今大会は、海上からのスタート、フィニッシュ方式で行われるため、スタートライン後方のスタート設備を搭載したボート上からスタート号令が出されます。

昨年の World Coastal Championships では、ビーチスタート、海上フィニッシュ方式で行われるなど、Venue の立地環境等に合わせた方式が採用されます。



Starter on the Boat



Start Signal

<i>Time</i>	<i>Visual signals</i>	<i>Audio signals</i>
-3 minutes		3 short blasts of hooter
-2 minutes		2 short blasts of hooter
-1 minutes		1 short blast of hooter
START		LONG Long blast of hooter
<i>Mass false start</i>	<i>Waving</i>	repeated <i>Repeated short blasts of hooter</i>

Start Procedure

(3) Race Umpire

レースに追航し、Interference や Severe Collision などを監視し、必要な場合には、クルーに対して、指示やペナルティを与えます。

すべてのクルーがフィニッシュしたら、レース成立の白旗を掲げます。

(4) Key Turning Mark Umpire

Key となる No5 の Red Buoy を Race Director と POJ が Key Turning Mark として指定し、そこには、IT0 を配置。

Umpire は、buoy を規定通りに転回しなかったクルーがいた場合、速やかに、Judge at Finish に無線機で連絡。

今回は、その他の Turning Mark には、Kayak に乗艇した NTO が監視。

各クルーの Buoy 転回の様子は、i-pad 等により、動画の撮影を行うとともに、携帯電話により、Judge at the Finish へ連絡を行っていた。

(5) Judge at the Start, Judge at the Finish

コースの Start Line/Finish Line 延長線の岸に設置されたテント内で、ビデオカメラからの映像をモニターしながら、False Start の判定及び着順を判定



Finish Video



Judge at the Finish

(6) Control Commission

水上へ出艇する砂浜において、クルーの ID 確認、艇へ張り付けた Boat Number, 国名表示の確認、ライフジャケットやデッドウェイト携行状況を確認。

また、出艇・帰艇のクルーは、必ず、安全管理の面から、サインを行うことが義務付けられており、この確認を行っていた。

(7) Cox Weighing

Cox は、FISA rule により、男女それぞれの種目において、性別を問わないことから、最大限 15Kg までのデッドウェイトの携行が可能。

コースタルのレースでは、レース中、艇内に海水が入り、デッドウェイトが艇外に流失したり、濡れることがあるため、昨年のアジアコースタルでは、レンガや金属片が使用されており、艇の損傷が危惧されましたが、今大会では、防水のバックが準備されており、今後の参考になると思います。



2018 ARCC Dead Weight



2019 ARCC Dead Weight



Maximum Dead Weight:15kg

5 担当業務

9/21 AM: Race Umpire, PM: Judge at the Finish

9/22 Judge at the Start

JURY DESIGNATION											2019 Asian Rowing Coastal Championships		
2019 Asian Rowing Coastal Championships											PATTAYA THAILAND		
COMPETITION :		2019 Asian Rowing Coastal Championships							Date		22/09/2019		Sunday
PLACE :		Pattaya, Thailand							Date		22/09/2019		Sunday
JURY MEETING AT :		Control Commission Tent at 7:00							Preliminary <input type="checkbox"/>		Heats <input type="checkbox"/>		Finals <input checked="" type="checkbox"/>
PRESIDENT OF JURY:		Takao SENDA											
Race no.	Time	Event	Round	Starter	Assistant Start	Judge at the Start	Race Umpire	Turning Point Umpire	Judge at the Finish	Control Commission (Checking IDs & LifeJackets)	Control Commission (Athlete Weights)		
10	8:00	CM2x	Final B	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
11	8:40	CMix4x+	Final	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
12	9:20	CM1x	Final	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
13	10:00	CMix2x	Final	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
14	10:40	CM1x	Final	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
15	11:20	CM2x	Final A	KUMAMOTO	THAMTHAVORNVANICH	AHMAD	PHONGPHANPHANEE	KOTHARI	ABDUL MALIK	LO	SONTAYANAN		
16	13:00	CM4x+	Final	ABDUL MALIK	AHMAD	KUMAMOTO	LO	SONTAYANANON	THAMTHAVORNVANICH	KOTHARI	PHONGPHANPHANEE		
17	13:40	CM2x	Final	ABDUL MALIK	AHMAD	KUMAMOTO	LO	SONTAYANANON	THAMTHAVORNVANICH	KOTHARI	PHONGPHANPHANEE		
18	14:20	CM4x+	Final	ABDUL MALIK	AHMAD	KUMAMOTO	LO	SONTAYANANON	THAMTHAVORNVANICH	KOTHARI	PHONGPHANPHANEE		
Jury Board					SENDA, ABDUL MALIK, KOTHARI								

Jury Duty Designation

6 日本クルーの参加

今回、三菱ボートクラブから、CM2×に1クルーが参加しました。

コースタル艇に初乗艇であったが、2日間で2回の乗艇練習を行い、レース参加となりました。

結果は、タフなレースで、思うようにいかなかったようですが、初めてコースタルローイングのレースを経験し、通常のローイングとは違う面白さを感じられたようで、帰国後、今回の経験を仲間の皆様にお伝えいただきました。



JPN01 : Mitsubishi Boat Club

7 おわりに

IOCがオリンピックから軽量級種目を除外する動きが顕在化する中、その代替として、FISAは、コースタルローイング/ビーチローイングスプリントをオリンピック種目として採用するように、IOCに対して要請していく方向性について、FISA加盟国への説明や協議を行っています。

このような動きを受け、世界各地、また、アジアにおいても、コースタルローイングの普及が急速に進展しており、日本でも、徐々に関心が高まってきて、海外での大会に参加するクルーも、増加しています。

特に、今回は、ボート開発途上国である Bahrain、Bangladesh、Cambodia などの国々が参加しています。

大会に先立ち、FISAのEvent Promotionのメンバーによるキャンプが実施されるなど、FISAはこのような国々でRowing人口を増やす狙いを立て、将来的なオリンピック種目への動きを加速しているように思います。

今年10～11月には、中国・深圳で世界ビーチスプリントファイナル、香港で世界コースタル選手権が開催されます。

今回開催地のタイでは、国内にコースタル専門のローイングチームが結成され、これまでのアジアの大会では、常に、優勝、準優勝の成績を収めています。

また、世界コースタルの大会誘致についても、公言されていました。

JARAにおいても、ようやくコースタルローイングを担当する専門部署の設置が進められています。

私自身、海外でのコースタルの大会をいくつか経験していますので、微力ではありますが、コースタルローイングの国内での普及に向けた取組を積極的に支援していきたいと思えます。

今回の派遣にあたりましては、JARA事務局をはじめ、関係の皆様方に感謝申し上げます。